

「シビックプライド」に関する提言書

第7期あま市まちづくり委員会
令和8年1月

目 次

はじめに	1
1 第7期あま市まちづくり委員会	2
2 市民参加型動画作成事業	3
(1) 事業概要	3
(2) 動画ファイル情報	3
(3) 期待される効果	3
(4) 分析	4
(5) 課題	5
3 あま市に対する提言	5
おわりに	6
第7期まちづくり委員会	6

はじめに

近年、少子高齢化の深刻化や価値観の多様化、ライフスタイルの変化など、社会情勢が変化したことで、地域の抱える課題は複雑化してきている。これに伴い、市民ニーズも多様化、高度化しており、従来の行政サービスや単一の主体だけでは対応が困難な課題が増加している。

このような状況下においては、行政、市民、地域組織、市民活動団体、事業者といった多様な主体が、それぞれの情報、人材、知識、ノウハウ等を結集し、共に協力して働く「協働」の推進が、将来にわたって活力ある地域社会を実現するための核心として、重要な役割を担っているものと考えられる。

平成24年6月に設置された「あま市まちづくり委員会」は、パートナーシップによるまちづくりの推進役として、「協働」に軸を置いたまちづくりを主題として、長きにわたり様々な観点から調査審議を行ってきた。

特に市民の視点による柔軟な発想や行動を取り入れ、市民の一人ひとりが「この地域の一員として、地域をより良くしていきたい」という主体性、当事者意識を持つことのできる取組に重点を置いてきた。

あま市に対するこれまでの提言内容は、下表のとおりである。第6期では「市民が誇り（シビックプライド）を持てる魅力的なまちづくり」をテーマに、市の現状や課題を整理し、協働を促進する事業案として「市民によるあま市のPR事業」等の提言を行った。

本提言書が、あま市のさらなる地域力向上と魅力発見に寄与するものと確信し、その実現に向けた動きに繋がっていくことを強く期待する。

令和8年1月19日

第7期あま市まちづくり委員会
委員長 横山 亜矢子

【参考】

期数	実施年度	報告内容または成果物等
第1期	平成24年度～ 平成25年度	あま市市民活動センター設置・運営に関する提言書
第2期	平成26年度～ 平成27年度	あま市みんなでまちづくり市民活動協働ガイドブック
第3期	平成28年度～ 平成29年度	協働の裾野を広げる取組 －友だちの輪でつながる協働－
第4期	平成30年度～ 令和元年度	あま市みんなでまちづくり市民活動協働のガイドブック「Jr.版」、「Young版」、「協働までの道しるべ」
第5期	令和2年度～ 令和3年度	協働のためのルールブック
第6期	令和4年度～ 令和5年度	協働を通して実現したいあま市の姿と協働促進のための事業案

I 第7期あま市まちづくり委員会

第7期まちづくり委員会は、市よりパートナーシップによるまちづくりの更なる推進に向けた「シビックプライド」に関する調査審議の依頼を受け、「シビックプライド」をテーマに調査審議を進めることとした。

第6期まちづくり委員会での提言内容を踏まえ、行政をはじめ、市民、地域組織、市民活動団体、事業者といった多様な主体がそれぞれ当事者として関わる形でのシビックプライドの醸成が、市民の意識改革と行動変容を促す有効（効果的）な手段と考え、その具体的な方策について審議を進め、実験として事業を計画し分析を行った。

回数	開催日	内容
第1回	令和6年 6月28日(金)	市より「シビックプライド」に関する調査審議の依頼を受ける。現状認識共有。
第2回	令和6年 8月30日(金)	情報発信と市民の関わりを増やすことに重点を置く方向性が決定。
第3回	令和6年 11月25日(月)	アクションプランの名称が「あま市シビックプライド向上作戦（仮称）」に決定。
第4回	令和6年 12月23日(月)	SNSイベント及びリアルタイム型の叫ぶイベントといった具体的な案が示された。
第5回	令和7年 2月17日(月)	参加率向上のための仕掛けを検討。
第6回	令和7年 5月19日(月)	事業の周知方法、参加方法、スケジュールを検討。
第7回	令和7年 7月7日(月)	事業名「おしえて！あま市イチ推し」決定。
第8回	令和7年 9月18日(木)	実施要項の決定。
	令和7年 10月1日(水)	「おしえて！あま市イチ推し」事業開始。
	令和7年 10月4日(土)	スカイランタンフェスにて事業啓発。
	令和7年 10月18日(土)	市民活動祭「あまのわ」にて事業啓発。
	令和7年 11月30日(日)	「おしえて！あま市イチ推し」募集終了。
第9回	令和7年 12月22日(月)	事業実施結果共有（動画視聴含む）。提言書案作成。
第10回	令和8年 1月19日(月)	提言書確定。市へ提言。

2 市民参加型動画作成事業

行政をはじめ、市民、地域組織、市民活動団体、事業者といった多様な主体がそれぞれ当事者として関わることでできる取組として、市民参加型動画作成事業を実験として実施し、分析を行うこととした。

あま市の魅力や、好きな場所、人、食べ物、歴史文化など、「あま市イチ推し」を動画で収録し、成果物として得られる動画について、市の公式SNS等における発信など有効活用を市へ依頼する。

(1) 事業概要

事業概要は以下のとおり。併わせて別紙のチラシも参照されたい。

- ・ 事業名：おしえて！あま市イチ推し
- ・ 募集期間：令和7年10月1日（水）～令和7年11月30日（日）
- ・ 公開時期：令和8年3月頃
- ・ 応募方法：Googleフォーム、Instagram、市イベントでの撮影
- ・ 募集形式：動画のみ
- ・ 募集内容：あま市の魅力、好きな場所、人、食べ物、歴史文化など
- ・ 動画要件：応募された動画のうち3秒間を使用
- ・ 広報周知：広報あま、市公式Instagram、市公式ウェブサイト、公共施設へのチラシ設置
- ・ 留意した点：市民が参加しやすい仕組みの構築。また、動画投稿における著作権などの取扱いの明確化。

(2) 動画ファイル情報

- ・ 容量：100MB
- ・ 収録数：82動画
(Googleフォーム(5)、Instagram(0)、市イベント等(77))
- ・ 再生時間：4分34秒

(3) 期待される効果

- ・ 行政主導ではなく、市民目線であま市の魅力を発信することで、当事者意識（自分事）を高める。
 - 「自分たちのまちは自分たちが語る」という構図が生まれ、受け手にとっても地域への関与が身近になる。
- ・ 自身の思いを実際に「声に出す」「表現する」ことであま市への思いがより深まり、シビックプライド醸成に繋がる。
 - 作る過程で、経験、記憶及び価値観が言語化又は可視化されることで、シビックプライドを本人が自覚しやすくなる。
- ・ 普段意識していない身近なものの意外な魅力を再認識できる。
 - 日常の風景や慣習が「魅力」として再定義され、地域への評価軸が増える（自分の暮らしへの肯定感にもつながる）。
- ・ 他の人の思いを知ることで、新しいあま市の魅力を発見できる。
 - 一人ひとりの視点が共有されることで、多様な価値観を前提とした「共通のシビックプライド」が形成されやすくなる。

- ・ あま市に対する思いが一つの作品となる。
 - 作品として残ることで、あま市に対する思いが一過性の感情で終わらず、後から見返して確認できる「共通の記録又は資産」として蓄積される。
- ・ 協働の「すがた」を具体的な成果物として可視化できる。
 - 「協働した結果、何が生まれたか」が明確になり、参加者の達成感を高めるとともに、次の参画意欲の喚起に繋がる。
- ・ 動画コンテンツの普及により、市内外の人にあま市の魅力が効果的に伝わり、シビックプライドの定着と向上へ繋がるきっかけとなる。
 - 市外からの反応（視聴及びコメント等）を見聞きすることにより、発信者にとって「自分たちのまちが評価された」という実感に繋がり、シビックプライドの醸成強化に作用する。
- ・ 市民、地域組織、市民活動団体、事業者及び行政が一体となった協働による広報活動の新たなモデルケースとなる。
 - 役割分担と関係づくりが進むほど、「自分の居場所があま市にある」という感覚が育ち、「シビックプライドの土台＝つながりと連帯感」を厚くできる。

(4) 分析

- ・ 制作過程において、あま市に愛着を持つ市民が多いことが確認され、適切な機会があれば協働に関わりたいと考える担い手が数多く潜在的に存在していることが明らかとなった。こうした市民の方々と共に活動することで、市のまちづくりにおける協働の有効性及びシビックプライド醸成を促進する広報、PRの手段としての有効性を認識できた。
- ・ イベント会場での呼びかけによる参加は一定数得られた一方、G o o g l e フォームやI n s t a g r a mを通じた自発的な投稿は限定的であった。この結果から、主に次の2点が示唆される。

① 市民の自発的な発信・参画を前提とした協働には、なお課題がある。

行政と市民が継続的に協働していくためには、市民側が自ら情報を発信し、意見表明や参加行動を起こすことが重要である。しかし、今回のようにオンライン投稿で「自主的な行動」を促す仕掛けだけでは十分な反応が得られにくく、市民の自主性に依存した協働モデルを成立させるだけの土壌は十分に醸成されていない可能性がある。

② 市民意見を収集する際には、行政側の働きかけの設計が成果を左右する。

市民に意見を求める場面では、行政側にも相応の工夫が求められる。今回、各種イベント等の現場に行政側（委員会）が出向き、対面で直接呼びかけて聞き取る方法を採用したところ、参加者は比較的快く応じる傾向が確認できた。したがって、オンライン投稿に依存するだけでなく、行事又は催事での対話型の聞き取りを組み合わせることは、実効性の高い手法の一つとして位置付けられる。

(5) 課題

- ・ 動画の見せ方（技術的な面）も重要である。
 - 視聴されて初めて「共感の共有」が起きるため、分かりやすさ、短時間化及び字幕等の基本仕様を整える。
- ・ 動画収録及び編集など相応のスキルを要する作業が障壁になり得るため、テンプレート化やサポート体制を整えるとともに、「協働」により補い、「担い手」を育てる仕組みを構築する。
- ・ 参加型の事業において、自発的な参加を促していくための手法を検討する。
 - オンライン依存にせず、対面での声掛けやその場で完結できる参加の導線や参加後のフォローまで設計に組み込む。
- ・ このモデルケースを委員会内で留めず、市の公式広報ツールとして全庁的に、かつ継続的に活用していく必要がある。
 - 運用主体、予算、年間計画、保管、再活用ルールを明確化する。
- ・ 他の市民活動や協働事業にて広く活用するための具体的な指針が必要である。
 - 募集要領、同意、著作権、個人情報、表現上の配慮、品質の最低基準を整理する必要がある。
- ・ 参加者の偏りを抑えるため、オンライン投稿が苦手な層にも届く参加手段（出張聞き取り、代理投稿、紙提出等）を用意する。
- ・ 成果の「還元」を設計する。
 - 上映会、動画サイトへのアップロード、市公式ウェブサイトでのアーカイブ化等により共有し、シビックプライドが定着する循環を作る。

3 あま市に対する提言

私たち第7期あま市まちづくり委員会は、「あま市みんなでまちづくりパートナーシップ条例」の理念に基づき、協働のまちづくりを継続的かつ自立的に進めるために「シビックプライド」について議論を重ねた。

委員会での深い議論を経て、市民一人ひとりの主体性、当事者意識を高めるためには、市民目線で発信する場が不可欠であるという結論に至った。その具体策として、市民参加型動画制作事業「おしえて！あま市イチ推し」を実行した。

本事業で制作した動画の市公式媒体への掲載は、地域への貢献の実感となることで参加者の誇りとなり、発信の場の提供はあま市への愛着を再確認する契機となる。この取組は、多様な主体が一体となってまちの魅力を発信する、新しい広報活動のモデルケースとしての一面も示した。

この活動を一時的なもので終わらせず、シビックプライドを醸成し、「協働のまちづくり」を推進するためには、成果物の活用及びモデルケースを継続的に展開することが不可欠であると考える。

上記の検討及び事業成果に基づき、あま市のシビックプライドの醸成を核とした協働のまちづくりを継続的なものとするため、次のとおり提言する。

【提言】

- ・ 本事業で得られた成果（動画）を市民との協働事例として、市の公式SNSやウェブサイト等で積極的に発信、活用すること。
- ・ あま市の認知度向上を図るとともに、外部からの評価を市民にフィードバックするサイクルを構築し、シビックプライドの定着、向上を図ること。
- ・ 第7期あま市まちづくり委員会における取組をモデルケースとして、市民、地域組織、市民活動団体、事業者、行政といった多様な主体が交流する場を設け、共に協力して事業を実施する仕組みにより、「協働のまちづくり」をさらに深化させること。
- ・ 多様な主体がそれぞれの強みを活かし、まちづくりの担い手として「協働」して事業に取り組むことのできる仕組みを構築すること。

おわりに

第7期あま市まちづくり委員会を通して、シビックプライドの醸成という目に見えない概念の取扱いに苦慮したが、参加型の事業という形でシビックプライドの醸成に寄与する手法を示すことができ、成果物として動画を作成することもできた。

議論の過程では、どうすれば市民の皆様が楽しみながら参加できるか、どうすれば「他人事」ではなく「自分事」としてあま市のことを考えられるのかの検証方法を真剣に模索した。「おしえて！あま市イチ推し」事業を実施した結果、多くの参加者から寄せられた動画やメッセージに触れ、私たち委員自身もあま市に眠る多様な魅力と市民の皆様の郷土愛を再発見することができた。

この提言書及び成果物である動画により、あま市の魅力発見につながると同時に、行政、市民、地域組織、市民活動団体、事業者といった多様な主体による「協働のまちづくり」が一層深化することで、シビックプライドが醸成されていくことを強く期待する。

第7期あま市まちづくり委員会委員一同

第7期あま市まちづくり委員会

委員長

横山 亜矢子

副委員長

小林 優太

委員

青山 巧
小野 鉦司
清水 留衣子
高橋 竜矢
船越 夏樹
渡邊 志保

飯尾 ひとみ
近藤 正子
鈴木 ころろ
中島 鉄夫
三浦 明里

大西 純滋
近藤 リカ
鈴木 奈津美
林 文
水野 京子

（五十音順・敬称略）